

327 人の生還

恐怖の一夜を乗り越えて ～高野会館～



▲津波と余震、寒さと恐怖の一夜を過ごした高野会館から脱出し、津波警報が出ている中、自力で高台を目指した。

2011(平成23)年3月11日、南三陸町の高齢者たち約300人が、海に近い高野会館の3階に集まっていた。高野会館は住民に親しまれている催事場で、この日は南三陸町社会福祉協議会が主催する芸能発表会が開かれていた。日頃練習してきた歌や踊りを披露する一連のプログラムが終了し、閉会式を行っているときに地震が襲った。

津波警報の発令に、近所の人たちも津波避難ビルに指定されていた4階建ての高野会館に避難して来た。10人ほどの社協職員と高野会館の職員は、上へ上へと高齢者たちを避難誘導した。屋上に続く防火扉を開めた時には、最後尾の会館職員は津波に濡れており、まさにぎりぎりの避難だった。屋上の周囲は濁流の海と化した。さらにひたひたと水位は上がり、足元まで浸水した。職員たちは、さらに高いところにある機械室に高齢者たちを避難させようとしたが、そこに続く通路の柵の扉の鍵がかかっており、職員たちはまたいで柵を乗り越え、高齢者を抱き上げて柵を越えさせた。

高野会館に逃げた327人は繰り返し押し寄せる津波と余震に怯えながら、一晩中立ったまま夜を乗り越えた。「1時だぞ。みんな元気があ？頑張ってたかあ？」「生きでる？」互いに励まし合う声が、生きる力を呼び覚ました。

翌朝、津波警報が発令されている中、歩くことができる人々は建物を下り、決死の覚悟で高台の避難所に向かった。ここに避難した327人は全員生還した。



◀ 右の建物が津波で全壊した高野会館。
結婚式や会合などで住民に親しまれていた。